



マーク：福田 常雄 氏

ふじみ

第164号

令和2年10月1日

発行人 社会福祉法人みちのく協会
 責任者 理事長 工藤和子
 施設 特別養護老人ホーム富士見荘
 ケアハウスアーベイン八幡平
 松尾デイサービスセンター
 介護相談所陽だまり
(富士見荘指定訪問介護事業所・富士見荘指定居宅介護支援事業所)
 地域密着型介護老人福祉施設はらからの里

岩手県八幡平市松尾寄木第11地割13番地1
 電話 0195(78)2455(代) FAX 0195(78)2467
 E-mail info@michinoku.or.jp
 URL https://michinoku.or.jp

「特効薬ができるまで」

社会福祉法人みちのく協会

理事長 工藤 和子

新型コロナウイルス感染症の感
 染拡大から始まった令和二年度も
 あつという間に半分が経過し、折
 り返しを迎えております。未だ、
 収束の兆しが見えない中、例年で
 あれば地域の方と共に盛り上がる
 ことが出来た「夏祭り」。そして、
 ご来賓をお招きして皆さんからお
 祝いして頂いた「敬老会」をいつ
 も通り開催することが出来なかつ
 た為か、どこかすつきりしない気
 持ちを持ちながら過ごして参りま
 した。

また、ご入居者様、そしてご家
 族様に対しては、コロナウイルス
 を施設に持ち込まないためにと長
 期にわたって「面会規制」を実施
 しなければならなくなり、大変、
 心苦しく思っております。過日の
 新聞に「岩手山の頂上でコロナウ
 イルスの退散祈願」との記事があ
 りましたが、私共も一日も早い特
 効薬の開発を心から願っております。
 これからインフルエンザの流
 行期に入りますので、これまで以
 上に、手洗い・うがい・マスクの
 着用、三密の回避、県をまたいで

の旅行の自粛など、職員と共に忍
 耐強く、その日を待ちたいと思っ
 ております。

そんなコロナ禍の中で開催した
 「夏祭り」「敬老会」は、結果的に
 はご入居者様のためのイベントと
 なり、施設の全職員がご入居者様
 と一緒に過ごすことのできるごと
 も貴重な体験となりました。今後、
 改めて新しい生活様式を模索する
 上で、施設が提供するサービス、
 施設行事のあり様など再考してい
 きたいと思っております。

最後に、このようなコロナ禍に
 合わせた施設運営を行って参りま
 すが、今後ともご家族様、地域の
 皆様のご理解とご協力を心よりお
 願い申し上げます。



私たちと一緒に働いてみませんか

みちのく協会では、人材募集を行っています。

職種：看護職員・介護職員（老人ホーム・デイサービスで勤務できる人）
 訪問ヘルパー（ヘルパー登録しておき、一日のうち短時間勤務できる人）

お問い合わせ：0195-78-2455 採用担当：熊谷・柚



特別養護老人ホーム

富士見荘

☎(0195) 78-2455

コロナ禍の夏祭り

八月四日、施設内行事としての「富士見荘夏祭り」を開催しました。今年は、地域の皆さまと共に楽しむ夏祭りではなく、ご入居者様のためだけに行う夏祭りとなりましたが、日中の時間をたっぷり贅沢に使って、各ユニットから順番に祭り会場（ホール）に出かけてもらおう形で行いました。

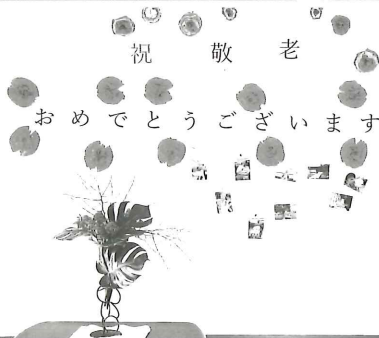
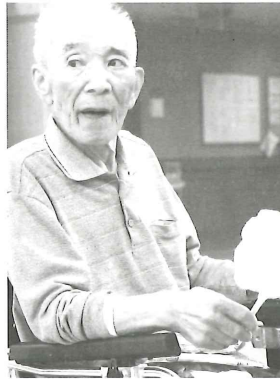
まるで、神社にある縁日を歩いているような、ご入居者様の表情や会話を楽しみながらゆったりした時間の夏祭りとなりました。



コロナ禍の敬老会

九月十八日、敬老の日を前に「富士見荘敬老会」を開催いたしました。来賓のお客様を招いての開催とはいきませんでした。晴れの日ですので、皆さん正装してホールに集合して、ご長寿をお祝いしました。

お食事は、もちろん晴れメニューの「にぎり寿司」そして、今回は介護職員も他の職員も各ユニットに散らばって、一緒ににぎり寿司を食べてお祝いしました。形式儀礼的な敬老会より肩ひじ張らずに家でおいしい食卓を囲む距離感もなかなか良いもんですね。



地域密着型介護老人福祉施設

はらからの里

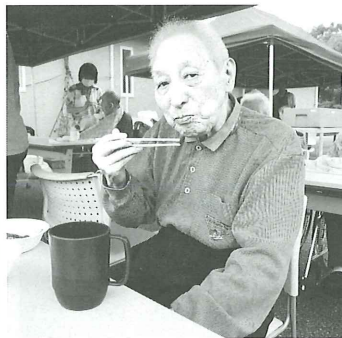
☎(0195) 68-7880

はらからの里夏祭り

七月十五日にささやかですが、夏祭りを行いました。今年はコロナウイルスの影響により、いつも来ていただいていた慰問団体の方にもお声をかけられず寂しい夏になりそうだったため、有志を募り、職員でさんさ踊りを披露しました。

踊り子が各ユニットを回って踊りを披露すると、顔なじみの職員が奇怪な恰好をして踊っている姿を見て、爆笑、号泣、拍手、厳しい目（踊りが得意な方の監督のようなまなざし）と様々な反応を見せてくださいました。「また来てや〜」「もっと見たかった」と声が上ががり、好評でした。

慰問団体の方には敵いませんが、職員の余興もまた違った楽しみがありました。

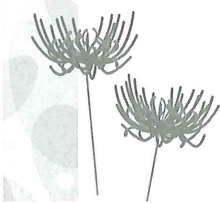


七夕の願い事が

叶いました☆

八月六日に焼き肉、そうめんの行事食を食べました。七月に七夕行事で利用者の皆さんに短冊を書いてもらいましたが、その中に「肉をたらふく食べたい」と書いた短冊を栄養士が発見。これは叶えなければ！と意気込み、外でBBQをしました。職員に晴れ女がいたため天気も味方し、降っていた雨も止んで外での食事を楽しむことができました。食の楽しみは人生の楽しみ。栄養士を筆頭においしい行事食の提供を頑張ります！

彼岸団子



九月二十五日に利用者の皆さんと彼岸団子作りを行いました。「作ってみてください」と職員が声をかけると皆さん「おれもう出来ねえ」と謙遜されますが、団子を手に持つと目の色が変わり、どんどんきれいなお団子が出来上がります。慣れた手つきであったという間でした。彼岸団子は栄養士が考案した伸びない豆腐入りの団子で、安全においしくいただきました。



デイサービスセンターも

☎(0195) 78-3720

おやつ作り

今年は外出行事を行うことが出来ない為、デイサービス内での行事を充実して利用者の皆様に楽しんで頂けるものと日々考えておりますが、毎年好評のおやつ作りを行いました。フルーツポンチ、へちまご団子、お好み焼きと決定。準備盛り付けと毎回のごとく手際良く手伝って頂きました。今年は特に密にならないようにと配慮しながら行いましたが利用者同士で身体を寄せながら「こっちが多い、そこのが少なえ様だ」と指さしながら互いに指導しあっていらつしやいました。出来上がり、見映えがともよく出来て、お店から買ったのみたいだねと感心されていました。味も美味しくお代わりされる方もいらつしやいました。

利用者様の満足
そんな笑顔に癒された職員一同でした。

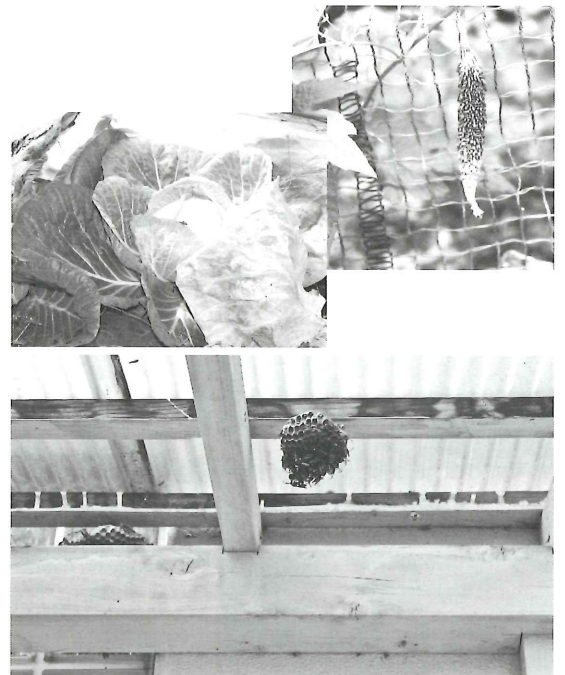


野菜が取れました！

毎年何を植え付けするかで悩まされている裏の畑ですが、今年は所長以下自宅でも余った苗を持ってきて頂き、ミニトマト、キャベツ、人参、じゃが芋、ゴーヤ、チンゲン菜、枝豆、かぼちゃと様々な野菜が集まりました。長雨の影響で生育がままの状態でしたが、中でもキャベツは大きく立派にできましたので昼食にサラダに変身し利用者様に提供することが出来ました。

今年はキャベツが高騰していたので助かりましたね。

苗の植え付け、草取り作業を手伝って下さいました利用者の皆様、ありがとうございました。



ハチの巣退治

デイサービス敷地内の灯油タンクの屋根に蜂の巣を発見。送迎車両の停車位置でもあり、毎日ごみ捨てに行く通路でもある場所です。所長が果敢に蜂専用のスプレーで駆除してくださいましたが、蜂の活動時間の日中に行ったので蜂が一気に飛び出してきたそうです。危ない目にあいながらも蜂の大部分は駆除できましたが、数日後、逃げ出した蜂が同じ場所に戻り巣に帰れずに塊になっていました。再度専用スプレーで退治して頂きました。

毎年のように蜂に攻撃されるニュースを見かけますが、今回の蜂は温泉の湯気にでも誘われたのでしょうか？

皆様も蜂を見かけたらすぐにその場所から離れて刺されないように注意して頂きたいと思えます。

リゾート型ケアハウス
アーベイン八幡平

☎(0195)
78-2710

「日常の中の緊張感…」

ケアハウスアーベイン八幡平

施設長 箱石 裕

新たな年度を迎えて早や六か月が過ぎようとしております。この間、昨年から始まった新型コロナウイルスへの取り組みや異常とも思える高温多湿の中での熱中症対策など通常では考えられない日常生活を過ごしてきました。アーベイン八幡平を利用してくださる方々の安全と健康を守り、安心した日常生活を提供するのが最大の課題と様々な活動に取り組んでおりますが、忘れてならないのが防災対策です。

今までの災害で最も際立つのが、平成二十三年三月十一日に起きた「東日本大地震」で、アーベイン八幡平も大きく揺れ動きました。幸い建物に大きな被害はなく、利用者の皆さまの安全は確保されましたが、地域全体が停電となったり、上下水道等ライフラインが寸断したりと日常生活の維持という点において数多くの影響を受けました。この時の印象として残ったのは、日頃の

防災訓練の大切さでした。大地震が襲った後、揺れが少しおさまったのを見計らったように、利用者の皆さまが一階の食堂ホールに集まり始めたのです。そのことにより皆さまの安全確認がスムーズに運んだのでした。これも年二回の総合防災訓練⇨避難訓練を励行してきたからこそと再認識することになりました。

災害は、何時、どのような形で起こるのか想像もできません。よく言われるのが、想定外という言葉です。平成二十八年八月に発生した台風十号は、東北地方の太平洋側に上陸したのも、岩泉町を直撃したのも想定外とささやかれて、その被害の甚大さが明らかになりました。その教訓から、防災訓練の中に従来から取り組んでいる「火災」「地震」に「自然災害」を加えることになったのです。

アーベイン八幡平の周囲を見わたしてみても洪水をもたらすような河川も近くにもなく、また土砂崩れをおこすような斜面もなく、一見、自然災害とは縁遠いようにも見えますが、最近の大雨の傾向はあなどりがたく、例えば、一日千ミリ、あるいはそれ以上の降雨に遭遇したら、どうなるか、など想定すべきこ

とがないわけではありません。岩手山噴火のハザードマップでは被害対象外地域となっていますが、対策を怠るわけにもゆきません。

このような事象を想定し、確実に利用者の皆さまの安全と健康を守っていくために必要なことは、それらに携わる人たちの意識を高めることと認識し、年二回の防災訓練を確実に実施することにしております。

「今までの生活を 守るために」



コロナ禍の中いかに今までの生活を守っていけるかが課題となります。面会や外出について、どのようにして緩和していくか、大変迷うところですが。

面会について、以前は地域を限定して面会を行っていましたが、現在は地域を限定せず面会いただいております。面会場所は限定し、アクリル板の衝立を設置したり、自作のパーテーションを設けたり、空気を循環させたりと試行錯誤しながら行っていたいております。

アーベイン八幡平では、極力不要不急の外出は控えていただいておりますが、田舎（山？）で人が少な

いこともあり、散歩する際には社会的距離（ソーシャルディスタンス）を保つことが安易にできます。しかし、田舎だけに熊との社会的距離を保つことが難しいときもあり、気を付けなければなりません。

その他、買物につきましては、藤徳商店によります週二回の移動売店、二週間に一度の西根方面への買い物送迎を行っております。買い物送迎につきましては、時間を短縮していただき極力他者との接触する時間を少なくするよう、利用者の皆様へも協力いただいております。

コロナウイルスは、高齢者にとつてたいへん怖いものです。しかし、社会との関りを断絶することによる、心の健康についても考えていく必要があるのではないかと考えます。（遠藤）



愛

筆
流

題字 関口作治氏

社会福祉法人 みらのく協会 基本理念

社会福祉法人みらのく協会の基本理念は「愛と献身」です。利用者一人ひとりの気持ちを大切に、心をこめた介護をいたします。

富士見荘の動き

8	4	富士見荘夏祭り(施設内行事)
	5	法人役員研修会 「より良い医療との連携を目指して」講義
	18	盆供養
9	3	介護職員初任者研修開講
	18	富士見荘敬老会(施設内行事)
	23	彼岸供養

富士見荘入退居者状況

入居者	7月	1	(0)	退居者	1	(1)
	8月	3	(1)		3	(2)
	9月	2	(0)		1	(0)

※入居()内は再入居。退居()内は死亡
※令和2年9月25日現在のもの

配食サービス

人数	月	7月	8月	9月
利用者数		327	282	281

金品寄付者のご芳名

(令和2年9月25日現在)

寄付金・寄贈品	
氏名	住所
小林 榮悦様	八幡平市

富士見荘利用者状況

(令和2年9月25日現在)

市町村	男	女	計
八幡平市	13	57	70
岩手町	0	2	2
その他市町村	0	3	3
合計	13	62	75

富士見荘短期入所生活介護

市町村	7月	8月	9月
八幡平市	229	230	216
他市町村	0	0	0
合計	229	230	216

編集後記

6

コロナウイルスは、未だに感染を広げておりますが、私達職員には、私生活を含めて三密回避や外出したら手洗い・うがいの徹底など自粛要請が継続してまいります。

このような生活を半年以上続けてふと思ったことがあります。コロナ禍以前は、旅行に行きたければ行けるし、仲間との飲み会も自由に出来ました。コロナウイルスの感染が拡大して、すべて出来なくなりまして。「ご入居者様は、いつもこんな気持ちで生活しているのではないか。」ご入居者様は、自分の意志で外出すらできないのが現実です。コロナ禍の苦痛を知って、今後、よりご入居者様の気持ちに寄り添った介護ができるようになるかもしれません。

(松尾)



今年も間羽松にここサロン様より、手縫いの雑巾100枚と折り紙細工を頂きました。手作りの物は、買ったものと違ってとても暖かく感じます。ありがとうございました。